



身延中きっての読書家に聞く！ミニ図書集会



今回の「ミニ図書集会」は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、放送で行いました。自他共に認める「読書家」の3名が登場し、思いきり「読書熱」「読書愛」を語っていただきました。ナビゲーターは図書委員会の2名。まるで長寿TV番組「〇〇の部屋」のような楽しい時間でした。



1人目は3年生のS. Mさん

Q. 本を読むようになったきっかけは何ですか？

A. 小さい頃はお母さんが絵本の読み聞かせをしてくださいました。小学校に入ってから友だちのすすめで児童文学をたくさん読むようになりました。小6の時に会った『探偵チームKZシリーズ』の「藤本ひとみさん」の作品との出会いも大きいと思います。

Q. もうすぐ受験ですが、これまでの読書経験は役立ちましたか？

A. 3年生になってからは国語のテストでかなりの量の長文を読むことが求められるようになりましたが、これまでの読書経験で速く確実に読む力がついたように思います。

Q. 読書が苦手な人へのメッセージをお願いします。

A. 読書は未知なる場所に連れて行ってくれます。知らない場所・知らない言葉・新しい考え方が大きな刺激を与え、すべてが私たちの生活を豊かにしてくれます。まずは興味のあることや知りたいことについて書かれた本からはじめてみませんか。



2人目は3年生のM. Yさん

Q. 本を読むようになったきっかけは何ですか？

A. 小さい頃から両親が町立図書館に連れて行ってくださいました。何万冊の本と出会う中でだんだんと自分の好きな本を選ぶようになりました。

Q. M. Yさんにとって「読書」とは何ですか？

A. 心を落ち着かせて眠りにつきたいとき、勉強に集中できないときに本を読みます。たまに音楽をバックに読むことも。読書をする「理由」を特に考えたことはありません。僕にとっては日常なことであり、あえて言うのであれば本を読むことが楽しいから。

Q. 明日、もし地球が減びるとしたら、今日、何を读みますか？

A. 海堂尊の『ブラックベアン』シリーズ。最後までワクワクできるから。住野よるの『君の臍臓をたべたい』これまでの読書経験の中でいちばん感情移入した作品。最後に泣きたいなら、ぜったいこれ！



3人目は体育科のS. R先生

Q. 中学時代はどんな本を読みましたか？

A. 『ドカベン』『はだしのゲン』…友だちと『ウォーリーをさがせ』に、夢中になりました。活字を読んだ記憶は…(笑)

Q. 忙しい毎日の中でどんな時に本を読むのですか？

またどうして先生は本を読むのですか？

A. ちょっとしたすきま時間、例えば夜、眠る前などに読みます。

「山梨県一の体育の教師」を目指していますが、まだ知らないことが多いので「読書」の力に大きく期待しています

Q. 「運動」と「読書」何か共通することはありますか？

A. 毎日、コツコツ続けることが大切だと思います。本に出てくる登場人物や情景などをイメージすることで体は動いていなくても脳の運動領域の部分が活性化されるという研究データもあります。読書によって脳も運動を続けるのです。

